



HOPPY team TSUCHIYA
 レースリポート
 2026 SUPER GT Rd.2 富士

日時	2026年5月3日予選、4日決勝	■車両名	HOPPY Schatz GR Supra GT
■場所	富士スピードウェイ（静岡県）	■カーNo.	25
■監督	土屋 武士	■ドライバー	松井 孝允／洞地 遼大
■チーム	HOPPY team TSUCHIYA	■リザルト	予選 Q1 A組9位 / Q2 18位 決勝 17位

退路を絶って臨んでいる今シーズン 失意の開幕戦から巻き返しの第一歩へ！

「今年ダメならレース界を去る」 武士監督がそう決意して臨んだ今シーズン。しかし開幕戦は27位と厳しい結果になった。そこから約3週間、再びマシンのセッティングを一から検証し「やれるだけのことはやって」第2戦富士を迎えた。これまでとは大幅にセットアップを変更したホピ子に勢いは生まれるのか。2戦連続で下位に沈むことは許されない状況、「理屈では上手いくはず」という確信がありながらも不安も完全には拭ききれない中、反転攻勢への第一歩は幕を開けた。



5月3日（日）フリー走行、公式予選

気象情報では天気やや不安のあった第2戦だが、富士スピードウェイの初日はやや風が強いものの好天に恵まれた。GW中の開催ということもあり、レースウィークはキャンプをしながら過ごすファンもいるなど、初日から多くのファンで賑わっていた。



▼フリー走行<GT300 23位 1分37秒799>

松井選手のドライブでセッションはスタート。マシンは良くなっているのか？戦えるのか？緊張感の漂う中ホピ子がコースイン。少しずつラップタイムを上げていく。富士の名物でもある約1.4kmの長いストレートで最高速は270kmを超える。ホピ子はトップスピード的にはトップレベルの数値が出ている。5周して洞地選手とドライバーチェンジ。前戦はこの作業でタイムロスしてしまっただけに、フリー走行からドライバーチェンジのシミュレーションには緊迫感が滲む。その後、セットアップの変更とドライバーチェンジを行いながら走行。18周目に1分37秒

799を記録。これがベストタイムとなった。その後は主にフロントの足回りのセッティングを試しながらの走行でトータル34周、GT300の23位でセッションは終了。劇的な進化とはいかず。Q1突破の上位18台に食い込めるか際どいラインだ。

▼予選 Q1:松井孝允 A組 9位 1分36秒442 (Q2進出) /Q2:洞地遼大 18位 1分36秒461

フリー走行終了後、武士監督、今季からチームに復帰した石塚エンジニア、松井選手、洞地選手によるミーティングが延々続く。ピットウォークの時間になっても終わらず、いつもよりファンの前に出てくるのが遅れるほど熱のこもったディスカッションが続いた。

予選 Q1 の時間が近づく。担当は松井選手。大きく変えたセットアップでどこまで行けるか。コースイン。インラップから1周、2周と徐々にペースが上がっていく。そして5周目にタイムアタック。1分36秒442。Q1突破圏内に上がる。その後続々と各チームの

マシンがフィニッシュラインを通過していく。25号車の順位が7,8,9位と下がっていくが、ここまで。Q1A組を9位で突破。今季初のQ2進出を決めた。ピットのスタッフの顔からも笑顔が溢れる。そして笑顔と共に緊張感と高揚感を高めたのが、ルーキー・洞地選手だ。開幕戦はQ2担当も出番なしだったため、本戦でSUPER GTの予選デビューとなった。武士監督、武藤チーフメカなどが柔らかな表情で声をかける。本人も「緊張してきた」と口にはしていたが、おそらく「やってやる」という思いが強かったはずだ。

Q2がスタート。洞地選手とホピ子はコースイン後、ウォームアップをしっかりと行い、5周目、初めてのタイムアタックへ。そのまま6周目も連続アタック。1分36秒461。僅差で前の2台には届かず、18位。決勝のグリッドが決まった。初の予選アタックを終えた洞地選手は「ニュータイヤで予選のグリッドレベルの高さにアジャストしきれなかった。最初のアタックでもっと行けたはず」と悔しさを隠さない。頼もしいルーキーだ。

ただ、これまでの課題であったマシンのアンダーステアが解決したわけではなく、決勝に向けてさらなるセットアップの変更が行われることになった。

5月4日（月）決勝レース

▼決勝<GT300 17位>

決勝日の気象予報は雨だったものの、雨雲は夜のうちに通過していき、決勝レースの時間には完全ドライのコンディションに恵まれた。HOPPY team TSUCHIYAは決勝でポイント獲得の15位以内を目指す。

スタート担当は松井選手。本戦の3時間レースでは、2度の給油義務と一人のドライバーが120分以上走ってはいけない、というレギュレーションがある。2度のピットストップとドライバーチェンジをどこで行うかが勝負の一つの“あや”となる部分だ。

時刻が午後2時7分を刻む直前、GT500の隊列に続き、GT300のレースがスタート。オープニングラップで軽い接触があったが大きな問題はなし。ただ、ホピ子はなかなかペースが上がらない。8周目に25位、22周目には28位までポジションが下がった。他チームが最初のステイントに入り始めた22周目、武士監督が洞地選手にスタンバイを指示。ピットストップのタイミングを探る。松井選手の粘りの走りで25号車はコース上に残りつづけ、最初のステイントを伸ばす作戦をとった。ポジションは一時12位まで上がる。そして、42周目、レース開始から1時間20分ほどのところでついに最初のピットイン。ここで給油、タイヤ4輪交換に加えてドライバーチェンジのフルサービスを実施。練習を重ねたドライバーチェンジもスムーズにこなして洞地選手がコースイン。26位でレースに復帰した。その直後にFCYを挟んだが、レース再開後徐々にペースを上げる。39秒台のラップタイムを維持しながら追い上げ、52周目には前を走る88号車・ランボルギーニに追いつき、元F1ドライバーのダニール・クビアト選手を追いかける形になった。その構図のまま各チーム2度目のピットストップのタイミングが訪れる。最初のピットストップのタイミングを引き延ばした25号車は68周目には14位に。



78周目には2度目のピットストップ。ここは給油に加えソフトタイヤ4本に交換してコースに送り出す。21位でコースに復帰。そこからソフトタイヤで洞地選手がプッシュに入る。この最終ステイントではついにクビアト選手を1コーナーでオーバーテイクした他、82周目にはこの日の最速1分38秒611をマークするなど速さを見せた。終盤には前を行くLMコルセのレクサスLC500を猛追する。95周目には一時7秒あった差が2秒余りまで縮まる。あと少しというところまで来たが、ここで3時間が経過。結局最終盤に他車の脱落もあり、ホピ子は最終的に17位でチェッカーを受けた。

中盤以降のペースは中団勢上位と遜色なく、ここまでの

長いトンネルを抜けるきっかけを掴むレースとなった。

中東の政情不安により第3戦セパンは中止。次は3か月近く空いて7月末から再び富士で行われる第4戦だ。この方向性でマシンを進化させ、ポイント獲得、そしてさらなる上を目指したい。「今年こそは結果を出したい」 武士監督以下、チームスタッフの想いは一層強くなった戦いとなった。

▽**土屋武士監督、松井孝允選手、洞地遼大選手のコメントはこちらからご覧ください。**

土屋監督 <https://youtube.com/shorts/uh-sg5UuyiE>

松井選手 <https://youtube.com/shorts/nt2fKe8aQuk>

洞地選手 <https://youtube.com/shorts/JuT1eAHsUDs>

◎つちやエンジニアリングのYouTubeチャンネル「つちやエンジニアリング_sub_ch」

広報・豊原が運営するYouTubeチャンネル INFINITY MOMENT でも随時 HOPPY team TSUCHIYA の戦いを追っていく予定です。

こちらも是非、チャンネル登録のほど、よろしくお願いいたします。

URL: https://www.youtube.com/@tsuchiya_25



つちやエンジニアリング_sub_ch

レース搬入日の直前情報、レースの見どころ情報、

予選後、決勝後の監督・ドライバーのコメントなどはこちらです。

URL: <https://www.youtube.com/@infinitymoment-tv>



INFINITY MOMENT

特集動画や武士監督のロングインタビューなどはこちらです。

【問い合わせ先】

つちやエンジニアリング合同会社

〒252-0822 神奈川県藤沢市葛原2507

TEL : 0466-49-5010 FAX : 0466-49-5011

担当： 土屋・豊原